

地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローバル型) 成果検証報告会 資料

**福島県立ふたば未来学園
中学校・高等学校**

研究開発
構想名

**原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を
創造するグローバル・リーダーの育成**

目的

- 地域探究と海外研修を体系的に位置づけたカリキュラム開発
- 地域や世界の課題解決に挑戦する人材の育成
- 教育と復興の相乗効果の創出、全国の高校への波及

育成
人材像

- 地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性
- 立場・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力
- 地域の資源を見出し、地域に新たな価値を創造する力

ふたば未来学園と双葉郡による広域協働コンソーシアム

- ◆ 県、ふたば未来学園中学校・高等学校と双葉郡8町村を中心とする広域コンソーシアムを構築。
- ◆ 生徒の実践的な学びで地域を活性化し、教育と地域復興の相乗効果を創出。



福島県立
ふたば未来学園中学校・高等学校

- ✓ 将来の地域ビジョン、ふたば未来学園で育成していく人材像の共有
- ✓ 上記に基づきふたば未来学園で展開する教育活動の企画・立案 等

3年間を通じた「地域課題解決の探究カリキュラム」の構築

- ✓ 学校設定科目「地域創造と人間生活」の設置。
- ✓ 課題解決のためのアクションを重視。
- ✓ 教員の関わりを含めた、汎用性のある探究活動指導方法の確立。
- ✓ 地域の特性を考慮した6つの探究ゼミでの実践。

原子力防災探究ゼミ

原子力発電所事故後の地域社会のあり方、廃炉と住民の関わり、地域コミュニティの復活について探究する。

メディア・コミュニケーション探究ゼミ

地域におけるメディア・コミュニケーションの効果的な活用方法、教訓を継承していくための方策について探究する。

再生可能エネルギー探究ゼミ

エネルギー供給地としての福島県の特性を踏まえ、エネルギーについて科学的、社会的なアプローチで探究する。

アグリ・ビジネス探究ゼミ

地域の現状をビジネスや生業の観点から調査し、風評払拭や新たな地域活性化の方策について探究する。

スポーツと健康探究ゼミ

Jヴィレッジの近隣という立地を活かし、スポーツを通じた地域活性化策や地域の健康増進策等について探究する。

福祉と健康探究ゼミ

少子高齢化の先進地域となっている双葉郡の地域性を活かし、地域の方が生きがいのある人生を送る方策について探究する。

海外研修等による地域と世界の課題解決

- ✓ 自身が取り組む地域課題解決の探究内容について、海外の同世代と議論。
- ✓ 地域課題とグローバル課題の往還による本質的な課題解決策の模索。
- ✓ 事前、事後研修も含めて、生徒が主体となった海外研修構築プロセスの確立。

1年次：ドイツ研修 フライブルク・ミュンヘン

住民の積極的な参画・関与によるまちづくりや再生可能エネルギーの活用について学び、今後の地域の在り方について考察する。
演劇やプレゼンによる福島の現状報告を行い、地域の理解を促進する。

2年次：米国研修 ニューヨーク、国連本部

「持続可能な社会づくり」をテーマに地球規模での課題について国際機関や世界の同世代と意見交換、議論を行う。
差別や対立・分断について米国の現状を学び乗り越える方策を探る。

成果1 中高6年間で連動した探究カリキュラムの開発(R4年度～)

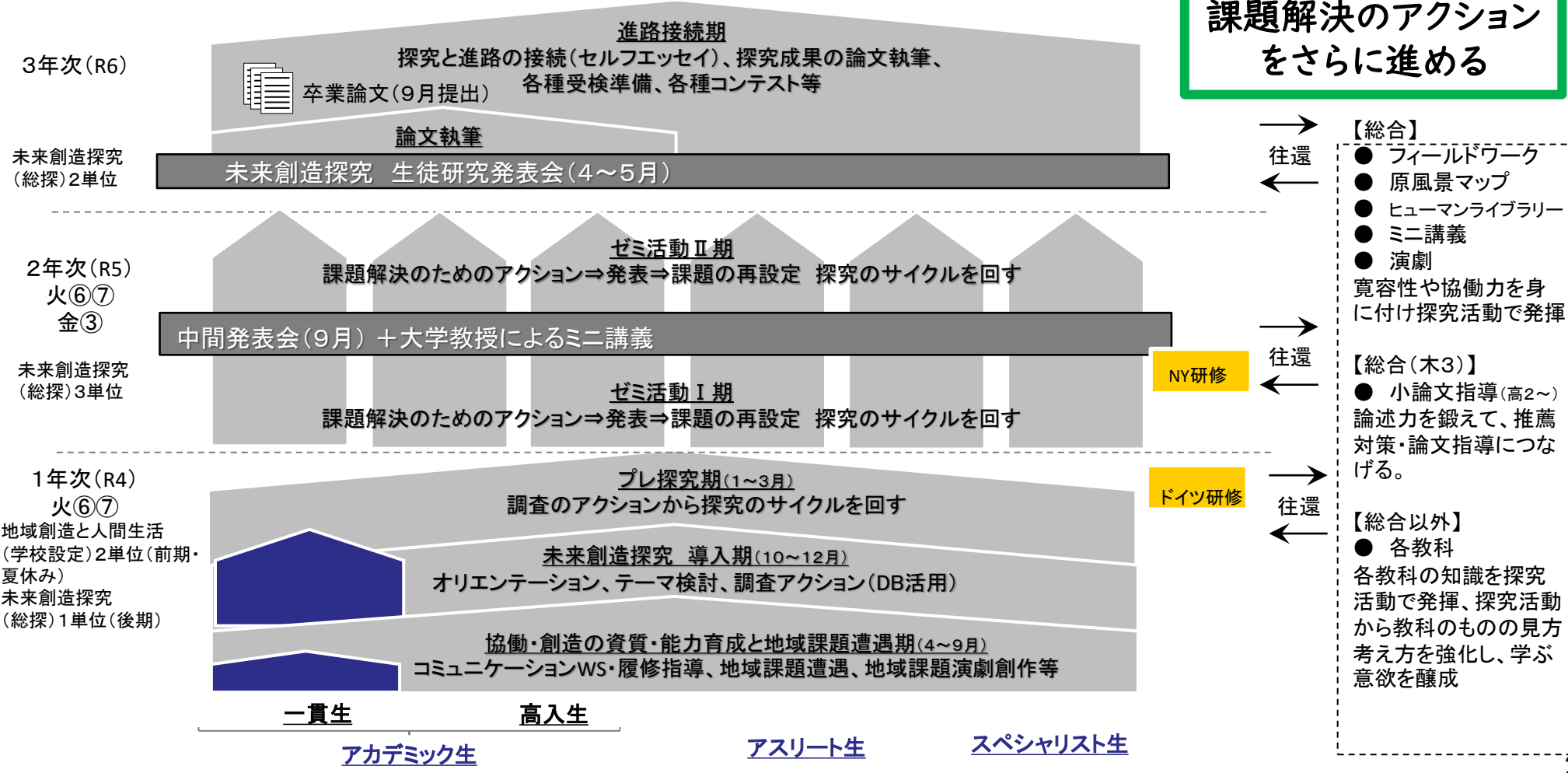
原子力災害からの復興を果たし、新たな地域社会を創造するグローバル・リーダーの育成

知識 ・ 技能 (スキル・コンピテンシー) ・ 人格 (キャラクター・センス) ・ 自らを振り返り変えていく力 (メタ認知)

めざすべき
人材像

- ✓ 地域や世界の課題と自己の夢とを重ね合わせ、当事者として行動する市民性
- ✓ 立場や・価値観の違いによる分断や対立を止揚する協働的ネットワーク構築力
- ✓ 地域の資源を見出し、地域に新たな価値を創造する力

深化ポイント
探究の前倒して
課題解決のアクション
をさらに進める



- 往還 ←
- 【総合】
- ライナルドワーグ
 - 原風景マップ
 - ヒューマンライブラリー
 - ミニ講義
 - 演劇
- 寛容性や協働力を身に付け探究活動で発揮
- 往還 ←
- 【総合(木3)】
- 小論文指導(高2~)
- 論述力を鍛えて、推薦対策・論文指導につなげる。
- 往還 ←
- 【総合以外】
- 各教科
- 各教科の知識を探究活動で発揮、探究活動から教科のものの見方考え方を強化し、学ぶ意欲を醸成

成果2-1 地域連携事業の面的拡大(双葉郡8町村との連携)

双葉郡8町村との連携事例 (未来創造探究)

- ・稲刈り、スポーツ等のイベントに参加あるいは自ら開催し、村おこしに貢献
- ・2022年から入居が始まる復興拠点区域のまちづくりに参画
- ・さくらタピオカによる情報発信
・週末喫茶店への出店を通じた地域活性化
- ・特産である「いわな」を具材としたおにぎりのレシピを開発しコンテストで受賞。婦人会とともに調理するイベントを開催
- 広域**
・映像やVRによる双葉郡ツアー
・マインクラフトでつくる双葉郡



- ・地域の伝統芸能「請戸の田植え踊り」を次世代に受け継ぐ方策を模索
- ・フルーツの活用による浪江町の活性化

- ・写真を通じて大熊をアピール
- ・ネクサスファームおおくまとの連携によるイチゴを使った商品開発
- ・大熊っ子座談会
- ・トリチウム処理水の本質に迫る

- ・Jヴィレッジを活用したウエディングプランの策定
- ・檜葉小学校との連携による絵画を通じた表現教室

- ・寄り道できる場づくり
- ・広野復興公社との連携によるバナナを使った商品開発
- ・広野町探検隊
- ・高野病院、花ぶさ苑との連携による福祉活動

常時約 **300** の地域での未来創造プロジェクト実践

深化ポイント
計画を立てるところから“協働”

高校3年次探究
約 **70** プロジェクト

高校2年次探究
約 **60** プロジェクト

高校1年次探究
80 プロジェクト

中学生探究
約 **80** プロジェクト

ほか社会起業部等
約 **15** プロジェクト

成果2-2 コンソーシアムとの連携（例：早稲田大学との協働） （ふくしま広野未来創造リサーチセンター）



① 探究活動への協力（専門知への接続）

中学校「未来創造学」、高校「未来創造探究」での生徒プロジェクト一覧を基に、適切な助言者(専門家)を紹介いただき、助言やプロジェクトの支援をいただくとともに、生徒の発表会でも講評・審査にも専門家の視点で参画いただいた。

② 「ふくしま学(楽)会」など各種研究会の開催 （地域知・専門知への接続）

半年に一度双葉郡内で開催されている早稲田大学主催「ふくしま学(楽)会」で、地域の方・専門家・中高生の対話の機会となっており、①で取り組んだ内容を様々な主体で議論することで、協働のきっかけとし、探究の深化や実践の加速につなげてきた。これまで参加してきた研究会（「廃炉の先研究会」や「科学とアートによる復興を構想する研究会(A&S研究会)」）やシンポジウムに生徒、卒業生、教員が登壇。

③ リエゾンマネージャーの常設



深化ポイント
専門家やリエゾン
マネージャーの
見立てで生徒の
探究を個別最適化

第4回 本校会場での開催

これまで生徒が
30プロジェクト以上発表
(2023年1月までに
10回開催)

1F地域塾の様子
専門家、地域の方、中高生
や教員などが1F廃炉について
学び意見を交わす場



生徒の探究内容について大学の先生方が助言・支援



「ふくしま学(楽)会」で多様な主体で議論を深める



生徒たちの探究の加速
(事例「H30 高校生と考える廃炉座談会」)

成果2-3 コンソーシアムとの連携 (例:カタリバとの協働)

未来創造探究 各ゼミ

教員

探究
マネジメントリーダー

- 原子力防災探究
- AI・コミュニケーション探究
- 再生可能エネルギー探究
- アグリ・ビジネス探究
- スポーツと健康探究
- 福祉と健康探究

教員

探究アドバイザー
(グループをみる)

4~8グループ



ゼミ担当
教員

カタリバ
スタッフ



ゼミ
リーダー

ゼミ担当
教員

カタリバ
探究
アドバイザー

月次会 (年6回程度)

学校

教員

企画研究開発部
カリキュラム責任者



- ・カリキュラムマネジメント
- ・全体教材の作成 (探究ノート等)
- ・各探究ゼミの取りまとめ
- ・各種勉強会の実施

教員

教務主任/学年主任
その他担当教員



- ・授業 (教科学習)
- ・課外活動の指導
- ・進路指導



中学教員

高校教員

高校教員

カタリバ
スタッフ

企画 定例部会 (毎週)

連携・協働

連携

授業設計/
相談



カタリバ

コーディネーター(CN)



- ・カリキュラム責任者の先生との連携、サポート
- ・アドバイザーの配置、育成
- ・専門家人材、地域人材のコーディネート

コラボ・スクール
双葉みらいラボ

- ・双葉みらいラボの設置、運営
- ・ユースワーカーの配置、育成
- ・専門家人材、地域人材のコーディネート
- ・教員への生徒情報の共有

連携



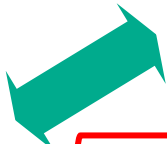
地域

地域コーディネーター



- ・地域の方々のコーディネート

派遣



スタッフ・
学生インターン

コーディネート

コーディネート

専門家人材・協力者等

専門家

大学生



地域

地域の方々

地元企業の方々

組合の方々



深化ポイント
毎週の企画部会
で教員とCNが
協働

成果3 海外研修・世界への発信～

～福島の子とグローバルな課題を重ね合わせて考える



地域課題解決の実践から見出した、「持続可能な世界実現」への提言を世界で発信。
福島の子とグローバルな課題を重ね合わせてディスカッションし、地域に還元。

深化ポイント
計画を立てるところから“協働”
生徒主体の研修を作る
プロジェクト型海外研修

コロナ禍における海外研修



2022年3年ぶりの海外研修実現！！

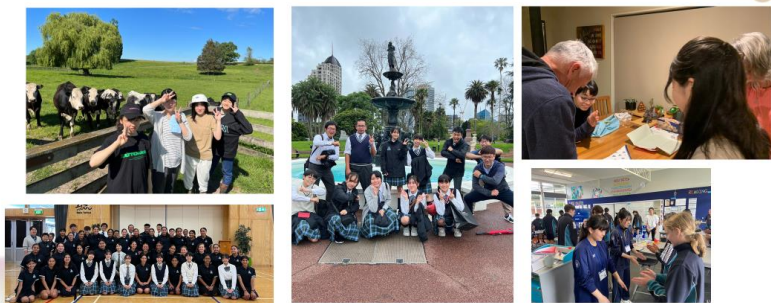
海外研修(ニュージーランド) 中学3年生
(一貫一期生先遣チーム)

ドイツ(高校1年)

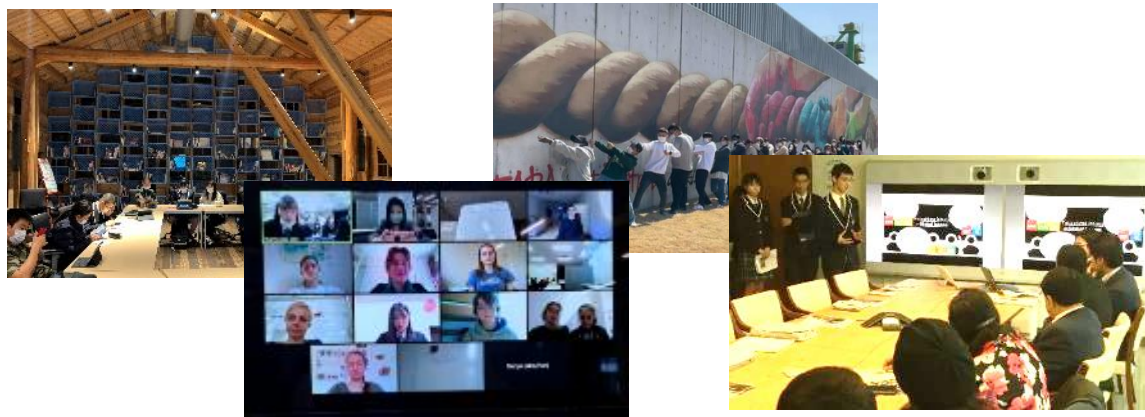
⇒徳島県上勝町研修&VRホームステイ

ニューヨーク・国連本部(高校2年)

⇒双葉郡バスツアー



海外研修(ドイツ研修)



成果4 探究フェイズに応じた教員の関わり方モデルの構築

探究フェーズ	Stage1	Stage2(1)	Stage2(2)	Stage3			Stage4
	問題発見 課題設定	現状分析	解決仮説	解決アクション① 考察 新たな課題	解決アクション② 考察 新たな課題	解決アクション③ 考察 新たな課題	考察 論文作成 進路実現
探究内容	・問立て ・研究動機 ・目標設定 ・哲学対話	調査 調査のための アクション 整理・分析	解決のためのアクション 仮説 構造化し他の問題・課題 との関係性を知ること	・解決のためのアクション ・より本質的な問題の発見 ・具体的な解決アクション	・考察 ・新たな課題設定		・考察 ・論文作成 ・提言 ・進路実現

カリキュラム 段階	人生/2年次生前期	2年次生後期	3年次生前期	3年次生後期
--------------	-----------	--------	--------	--------

【生徒】 各変容 フェーズ における 望ましい 具体的態度 や行動	「守」：受容的な 姿勢 正確に物事を知り 探究の 基礎を作る	「破」：生成的な 姿勢 柔軟に他の問題と 繋がたり 想像力を働かせる	「離」：持続的に 取り組む姿勢 リスクを恐れず チャレンジ 実践を連鎖させる
-----------------------------------------------------	----------------------------------------------------	--------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------

【教員】 担当者の 働きかけ	インストラクター (現状を正しく捉えさせる) ・知識のレクチャー ・調査研究(書籍/WEB/インタ ビューなど)	ファシリテーター (問いを立てて引き出す) ・問いを通してテーマを深化させる ・生徒自身が本当に取り組みたい実 践を引き出す	メンター (応援・勇気づけをする) ・実践への勇気づけ ・実践後の振り返り(リフレクション)
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------

深化ポイント “ジェネレーター”としての関わり方	ジェネレーター (自らも発言し発見とコミュニケーションを生成する)
------------------------------------	---------------------------------------------

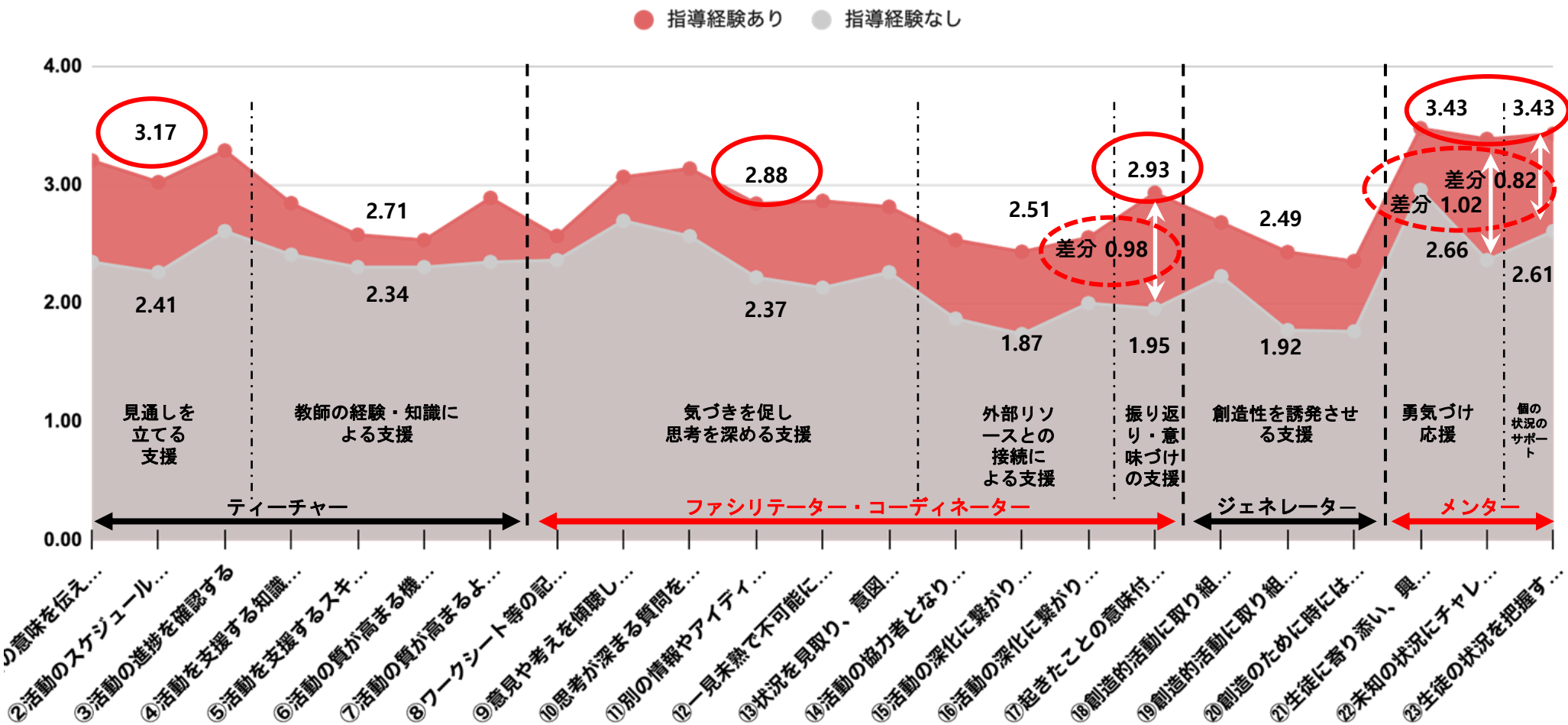
【成果4資料①】探究指導の際の教員ロール・関わり①

深化ポイント 探究指導のロールと関わりを言語化

生徒の探究Stage 教員のロールと関わり	Stage 1	Stage 2 (1)	Stage 2 (2)	Stage 3			Stage 4
	問題発見 課題設定	現状分析	解決仮説	解決アクション①	解決アクション②	解決アクション③	考察・論文作成 進路実現
ティーチャー・インストラクター (答を持って教える)	<ul style="list-style-type: none"> ▼見通しを立てる支援 <ul style="list-style-type: none"> ① 各活動の意味を伝え、目的を意識させる ② 活動のスケジュール作成を支援する ③ 活動の進捗を確認する ▼教師の経験・知識による支援 <ul style="list-style-type: none"> ④ 活動を支援する知識・情報を提供する ⑤ 活動を支援するスキル・手段を提供する ⑥ 活動の質が高まる機会を設定する ⑦ 活動の質が高まるよう指導する 						
ファシリテーター・コーディネーター (引き出す・つなげる)	<ul style="list-style-type: none"> ▼気づきを促し思考を深める支援 <ul style="list-style-type: none"> ⑧ ワークシート等の記入を通じ、不足している観点に気づく機会をつくる ⑨ 意見や考えを傾聴し、考えの整理や言語化を支援する ⑩ 思考が深まる質問をする ⑪ 別の情報やアイデアを与え意味を付与する ⑫ 一見未熟で不可能に見えるアイデアであっても問いかけを通して深化させ、生徒がブレーキをかけることがないように発想を拡げさせる ⑬ 状況を見取り、意図的に生徒の意見や思考の深まりを待つ ▼外部リソースとの接続による支援 <ul style="list-style-type: none"> ⑭ 活動の協力者となりそうな専門家・地域人材を紹介する ⑮ 活動の深化に繋がりそうな課外活動・地域イベント等の機会を紹介する ⑯ 活動の深化に繋がりそうな情報・文献を紹介する ▼振り返り・意味づけの支援 <ul style="list-style-type: none"> ⑰ 起きたことを意味付け理解を助け、振り返りによる学習の機会を与える 						
ジェネレーター (生成的な参加者：Generative Participantとして協働する)	<ul style="list-style-type: none"> ▼創造性を誘発させる支援 <ul style="list-style-type: none"> ⑱ 創造的活動に取り組むメンバーの一員として生徒とともに楽しんでアイデアを出すことで、創造のためのコミュニケーションを誘発するとともに、一人の「探究的な学習者」としての姿勢を見せる ⑲ 創造的活動に取り組むメンバーの一員として思考や活動の深化を誘発することで、生徒だけでは到達できない段階へ探究を深化させる ⑳ 創造のために時には自ら手を動かす 						
メンター (精神的にサポートする)	<ul style="list-style-type: none"> ▼勇気づけ・応援 <ul style="list-style-type: none"> ⑳ 生徒に寄り添い、興味関心に理解を示し、活動に向かっていけるよう声掛けをする ㉑ 未知の状況にチャレンジできるよう励まし、生徒の実践を後押しする ▼個の状況に応じたサポート <ul style="list-style-type: none"> ㉒ 生徒の状況を把握するため、定期的もしくは積極的に声掛けをする 						

【成果4資料②】指導経験から見るロールの傾向

- ✓ 全ての関わりにおいて「指導経験あり」教員が経験のない教員を上回り、積極的に生徒へ関与。
- ✓ 経験あり教員は「メンター」「ファシリテーター」のロール発揮が強い傾向。
- ✓ 経験有無で最も差が出るのは「⑳未知の状況にチャレンジできるよう励まし実践を後押しする」「㉑振り返り・意味づけの支援」「㉒個の状況に応じたサポート」



● 1=全く行っていない 2=それほど行わなかった 3=時々行った 4=よく行った

● 指導経験あり=46名 / 指導経験なし=23名 (11月~本校教員を対象に調査)

令和5年度以降の活動方針について

① さらなる探究の高度化

- ・ より文理融合したグローバル・イシューや高度な学問分野との接続を強化 (WWL申請へ)

② 教科横断的な学習と総合探究、教科と探究の往還関係の構築

- ・ 偶発的なクロス・カリキュラムから教科横断的な学習をカリキュラムに統合する方法の研究

③ 地域復興と教育の相乗効果を生み出す探究学習

(+ 生徒・教員・地域の方の三者が探究学習を通じて、ウェルビーイングが向上する形)

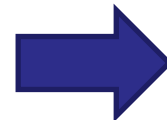
ふたば未来学園の教員からの問い

「探究学習は地域住民のウェルビーイング向上を実現できるのか？」

④ 全校で探究学習を伴走するための校内研修の充実

<校内研修の時間削減の要因>

- R2 コロナ対応に伴うオンライン授業への対応
- R3 多忙化解消に伴う校内研修時間の削減
- R4 アカデミック系列の週36単位に伴う授業時間の確保



結論

どんなに忙しくても目線合わせの時間は必要不可欠
「校内研修は必要」